大日本帝國政府

空乘第五五九號　　昭和十六年六月二日

航空局長官

陸軍次官殿

第十期航空機操縱生志願者第一次身体檢査實施方依頼ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ當局昭和十六年度航空機操縱生志願者第一次身体檢査ヲ左記ノ通リ實施方依頼致度ニ就テハ御繁忙中誠ニ乍恐縮何分御高配ヲ相煩度及御依頼候

追テ檢査實施ノ爲ニ要スル諸經費（醫官ノ臨時派遣ヲ含ム）ハ全部當局ニ於テ支辨ス可クニ付檢査終了後請求書御提出相成度

記

陸軍省 16.6.6 醫事課
陸軍省 16.6.5 受 衛生課

大日本帝國政府

検査場所	検査豫定月日	人員	検査豫定	摘要
福岡	自八月八日 至八月十二日	一五〇名		
善通寺	〃	五〇〃		
廣島	〃	五〇〃		
岡山	〃	五〇〃		
姫路	〃	五〇〃		
名古屋	自八月八日 至八月十二日	四〇〇〃		
東京第一	〃	四〇〃		
宮城	〃	五〇〃		
水戸	〃	五〇〃		
宇都宮	〃	五〇〃		
東京第二	自八月八日 至八月十二日	四〇〃		
仙台	〃	五〇〃		
盛岡	〃	五〇〃		
青森	〃	五〇〃		
札幌	自八月八日 至八月十二日	一〇〇〃		

検査場所	月日	人員	検査豫定	摘要
高崎	自八月八日 至八月十二日	一〇〇名		
金澤	〃	一〇〇〃		
松本	〃 八月十二日	五〇〃		
岡崎	〃	五〇〃		
濱松	〃	五〇〃		
大阪	自八月八日 至八月十二日	二〇〇〃		
京都	〃	三〇〇〃		
大分	〃	一〇〇〃		
久留米	自八月八日 至八月十二日	二五〇〃		
熊本	〃	五〇〃		
鹿兒島	〃	五〇〃		
那覇	〃	五〇〃		

大日本帝國政府

合計　二九〇名

備考

一、陸軍航空勤務者第一次身体検査規則ヲ準用ス

二、検査人員一日五十名ヲ標準トス

三、検査豫定人員ハ多少増減アルモノトス

四、志願者名簿等ハ人員確定次第後日別途關係各病院ニ送付ス

五、本表中検査日割ハ日曜祭日ハ除ク

電報 二九號

七月十五日

米二普通合第二六一九號
昭和十六年七月五日

外務次官

陸軍次官殿

別紙添

智利ノ輸出及再輸出ニ關スル法案ニ關スル件

本件ニ關シ今般在智利川崎代理公使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セル
ニ付御參考迄右茲許送付申進ス
本信送付先　陸軍省、海軍省

三五一二號

陸軍
16.7.7
後午
官臣

軍務
16.7.7
1063
軍務課

外務省

六月三十日着松岡外務大臣宛在智利川崎代理
公使來電寫

再輸出及輸出ニ關スル法案ハ有效期限ヲ三ケ年ニ修正ノ上略原案通リ二十五日上院ヲ通過シタルカ同討議ニ於テ「エラスリス」議員ハ臨席ノ外相ニ對シ智利カ對日禁輸ノ具トシテ本法ヲ輕々ニ適用セサル事ヲ切望スト述ヘ次テ日智貿易ノ重要性及右增進ノ可能性ニ言及シ自分等ハ先ニ通商使節トシテ訪日ノ際日本側ノ需要スル當國鑛物資源開發ノ爲日智兩國資本ノ協力方ヲ提案セルカ右ハ最近漸次實現シツツアリ日本ハ智利產銅ヲ買增シ居ル他「コバルト」「マンガン」其他鑛石類ヲモ必要トシ之等新品目ノ對日輸出モ今ヤ正ニ其ノ緒ニ就キツツアリ自分ハ日本側カ十萬噸迄硝石ヲ買進ム用意アルヲ承知シ居レリ依テ自分ハ今日迄對日貿易增進ニ盡シ來レル努力カ水泡ニ歸スルヲ見ルニ忍ヒサルモノナルカ右希望ト自分ノ汎米主義的信條トハ毫モ杆格スルモノニ非スト說キ最

外務省

(日本標準規格B5)

後ニ自分ハ日智兩國トモ參戰セストノ建前ヨリ此レヲ論シ居ルモノナル處斯ル見地ヨリスル時ハ吾人ハ自國經濟ヲ害シ同時ニ友邦日本モ傷付クルカ如キ措置ノ採用ヲ愼シム要アル事ヲ指摘スルハ自分カノ任務ト認ムト述ヘタリ更ニ自由黨議員「アソーカル」ハ其發言中ニ於テ本法ノ主眼ハ當國輸入品ノ再輸出ヲ禁止スルニアルニ過キス從テ本法ハ何等國際的重要性ヲ有スル程ノモノニ非ス

思考スト述ヘ最後ニ外相ハ政府ハ外國貿易ヲ廣汎ニ亘リ進展セシメサルヘカラス從テ本法ノ運用ニ當リテハ極メテ愼重タルヘク國民カ憲法ニ依リ授與セラレタル權利ヲ阻害セサル樣最善ヲ盡スヘシト言明セリ

(日本標準規格B5)

七月十五日

第二六號

極秘

米二極秘合第二六五八號

昭和十六年七月八日

陸軍次官殿

外務次官

別紙添附

歐洲南米間交通聯絡狀態査報方ノ件

本件ニ關シ關係出先公館長ニ對シ査報方訓令相成タル處今般在伯石射大使ヨリ別添寫ノ通リ電報越セルニ付御參考迄右茲許送付ス

本信送付先　陸軍次官、海軍次官、遞信次官

陸軍省 昭和 16.7.9. 前十時 次官

陸軍 16.7.9. 1092 軍務課

外務省

極秘

電

松岡外務大臣宛在伯石射大使來電（七月三日着）寫

南米歐洲間交通聯絡狀態査報方ノ件ニ關シ

一、歐洲ト南米ノ聯絡船會社名其ノ他參考事項左ノ如シ

(イ) 伯國ノ「ロイド・ブラジレイロ」會社就航回數ハ不定期ニシテ寄港地ハ次ノ如シ卽チ「ブエノスアイレス」「モンテビデオ」「リオデジヤネイロ」「バイア」「レシフエ」「リスボン」

(ロ) 西班牙ノ「イバラ」會社。就航回數ハ毎月一回ニシテ寄港地ハ次ノ通リ「ブエノスアイレス」「モンテビデオ」「サントス」「リオデジヤネイロ」「テネリフ」「リスボン」「カデイス」「バルセロナ」

(ハ) 葡萄牙ノ「コンパニヤ・コロニアル・デ・ナベガソン」。就航ハ不定期ニシテ寄港地ハ「サントス」「リオデジヤネイロ」「レシフエ」「リスボン」ナリ

以上ハ何レモ郵便物ハ之ヲ引受ケス

外務省

二、歐洲ヘノ乘船往航切符ノ入手比較的容易ナルモ復航ハ殆ド不可能ナリ而シテ乘客ハ英國領事ノ旅券査證ヲ必要トス

三、當地歐洲間聯絡飛行便ハ目下伊太利ノ「アラ・リドリア」會社經營ニナル「リオデジヤネイロ」羅馬間直通ノモノアルノミニシテ一週一回ナリ寄港地ハ「リオデジヤネイロ」「レシフエ」「イルデ」「ヴィリア・シスネロス」「カボベルデ」「サル」「ド・ア」（「モロツコ」）「セヴイラ」羅馬ニシテ其所要日數ハ五日ナリ

西班牙

諸國向ケ郵便物（英國向ケノモノヲ含ム）ヲ引受ケ居レリ

乘客收容力ハ一機ニ二名ニシテ座席留保困難ナルモ日本外交官ニ對シテハ優先權ヲ與フル趣ナリ

外務省

七月十六日

第二七號

電報

中村

秘

米二祕合第二六七四號
昭和十六年七月九日

陸軍次官　殿

外務次官

別紙添附

巴奈馬灣沿ヒ幹線道路ノ改修工事ニ關スル件

本件ニ關シ今般在巴奈馬井澤代理公使ヨリ別添寫ノ通リ報告越セルニ付右何等御參考迄茲許送付ス

本信送付先　陸軍次官、海軍次官、軍令部次長、參謀次長

陸軍省
16.7.10
第二課

陸軍省
16.7.11
1084
軍務課

外務省

（日本標準規格B5）

昭和十六年五月二十一日

在パナマ
臨時代理公使　井澤　實

外務大臣　松岡洋右殿

巴奈馬灣沿ヒ幹線道路ノ改修工事ニ關シ報告ノ件

「パナマ」運河入口附近渡船場ヲ起點トシ西南方ニ走ル幹線道路中運河地帶ニ屬スル部分（渡船場西側ヨリ「パナマ」國トノ境界線「アライハン」ニ至ル九哩半）ハ先年既ニ混凝土化ヲ了シ又「アライハン」ヨリ「ラ、チョレーラ」ニ至ル部分十二哩七ハ客年七月十二日工事終了シタルカ「パナマ」國土末省ニ於テハ客年八月十九日引續キ「ラ、チョレーラ」ヨリ「リオ、ハト」ニ至ル部分五十八哩餘ノ工事ニ着手シタルカ本月十六日當地「スター、アンド、ヘラルド」

外務省

（日本標準規格B5）

紙カ土木大臣及同省道路課長ノ談トシテトシ報スル處ニ依レハ右工事ハ現在既ニ其三十五%ヲ終了シ天候ニ調ヲ來スコトナク且ツ米國ヨリ橋材（二十二橋分）ノ到着遲延セサル限リ本年十月下旬頃ニハ全工事完了ナル趣（ナリ

右兩地間道路ハ從來薄キ「アスファルト」鋪裝ヲ有シ居リタルモ走路山地ナルタメ高底曲折極メテ多キ上客年十月頃「リオ、ハト」ニ米國空軍基地設置サレ重車輛ノ往復頻繁トナレル爲破壞箇所續出シ修繕間ニ合ハス特ニ「カピラ」「カンパーナ」兩峠（道路半經小傾斜急）ニ於テハ鋪裝全ク脫落シ砂碎露出、穴凹夥シク現在辛ウシテ「トラック」一臺ヲ通シ得ルノミナラス橋梁概ネ脆弱ニシテ重車輛ノ通過ニハ相當ノ危險伴フヲ免レサル狀態ニ在ル處現在混凝土化工事部分ハ最大幅員二十五呎位ニシテ重砲、大型軍用「トラック」等ノ通行容易ナルヘク且ツ全面的ニ「ショート、カット」ヲ行ヒ直走路ノ增加ヲ試ミタルヲ以テ馳走速度極メテ增大セルニ依リ全道程

（日本標準規格B5）

完成ノ曉ハ當國内地方面交通ニ資スル處不尠ルノミナラス軍事的影響甚大ナリト認メラル

尚ホ「パナマ」市ヨリ東方ニ向フ國道ハ現在市附近數哩ヲ除キ混凝化セルモノナク「パコーラ」附近迄二十三哩餘カ辛シテ「トラック」ヲ通シ得ル程度ナリ

何等御參考迄此段報告申進ス

外務省

(日本標準規格B5)

第二八號

保存期限	決裁指定	決行指定
十年	航空部長兼任	川原

政務次官 参與官	回附 決裁 前後	連帶 軍務交通 課名	決裁 回覽 課名	陸軍
		防衛	参本第二課	

受領番號	件名
壹第一三五一號	東京、北京線寄航地其他變更ニ關スル件回答

起元廳(課)名
航空局 陸軍航空本部

大臣	政務次官	參與官	書記官	書記官	書記官
委任					

次官	高級副官	主務副官	主官房御用係計	書記官
委	川原			

本部長	總務部長	主務部長	庶務課長	主務課長	副官	主務部員	書記官
委	森本		森本		森本		

主務局課 番號	受領	提出	大臣官房 受領	結了
航本 參第一三二號	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 四月五日	

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

拾年保

陸普	回答
次官ヨリ航空局長官ヘ	
三月二十六日附空監第二六三號ニ係ル首題ノ件ニ関シテハ差支ナキ	
之ニ付諒承相成度回答ス	

陸普第二二三三號

昭和十五年四月五日

空監第二六三號

昭和十五年三月二十六日

航空局長官

陸軍次官殿

東京北京線寄航地其ノ他變更ニ關スル件

大日本航空株式會社ヨリ東京北京線定期航空ヲ左記一ノ通來ル四月一日ヨリ變更致度旨申請有之當局ニ於テハ許可致度意嚮ニ有之福岡京城青島間航空路ヲ左記二ノ通指定致度ニ付テハ右ニ對スル貴見至急承知致度及照會候

追而右變更ノ上ハ現行ノ福岡北京間隔日運航ノ軍用定期ハ之ヲ休止スルコトト致度申添候

記

一、變更要領

航本 第一課
交通
陸軍大臣 15.3.28
軍務局
陸軍航空本部 15.3.29 三月連絡員
15.4.13 軍務課
航空本部 15.3.28 受付

日本標準規格 B5判 日章社納

1. 寄航地

福岡青島間群山寄航ヲ京城寄航ニ變更

2. 運航回數

隔日一往復ヲ毎日一往復ニ變更

三、航空路

福岡京城間　既設定期航空路

京城青島間　直路

日本標準規格 B5判　日章社納

有添付 第一三五 共

回覽

航本第二課

航本第一課

陸軍省 軍務課 軍事課 防衛課 交通課スミ

空監第三一一號

昭和十五年三月三十日

航空局長官

陸軍次官殿

東京北京線寄航地其ノ他變更ニ關スル件

右件別紙寫ノ通許可相成候條御了知相成度

陸軍省 15.4.16 197 防衛課

陸軍省 15.4.13 交通課

陸軍省 15.4.15 57 軍事課

陸軍大臣官房 15.4.9. 前午 秘書官

陸軍航空本部 15.4.9. 起233 連絡員

航空本部 15.4.10 受付

陸軍大臣 15.4.13 450 軍務課

航空局

日本標準規格 B5判 日章社納

寫

空監第三一一號

昭和十五年三月三十日

航空局長官

大日本航空株式會社

總裁　中川健藏殿

東京北京線航空回數其ノ他變更ニ關スル件

昭和十五年三月二十日附日航企第二〇六號願右件許可相成タルニ付了知相成度

航空局

日本標準規格B5判　小菅納

第二九號

保存期限	決裁指定	決行指定
十年	秦	川

政務次官 参與官	回附 決裁 前後	連帶課名

受番	領號	件名
		臺第三四八號 航空器材委託調辦ニ關スル件

拾年保

決行(決裁)後 回覽課名	起元廳(課)名
	航空局

陸軍

大臣	次官	政務次官	参與官	書記官	主務副官 官房御用係 主計	高級副官	主務部長	總務部長	庶務課長	主務課長	主務部員	副官	審査者 記案
安	委						主	主		代			鈴木

大臣官房		主務局課		
了結	領受	提出	領受	番號
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	航本發第五一一號

決行(決裁)後回覽	連帶
局長	局長
課長	課長

七月十五日

陸普　副官ヨリ航空局長官ヘ通牒

六月十四日附空補第二〇六號ニ係ル首題ノ件ハ陸軍航空本部長ヲシテ調辦方取計ラハシメラルルニ付承知相成度

陸普第五三八二號　昭和拾六年七月拾五日

陸普　副官ヨリ陸軍航空本部長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通航空局官ヨリ願出アリタルニ付調辦方取計ラハレ度依命通牒ス

陸普第五三八二號　昭和拾六年七月拾五日

大日本帝國政府

陸軍航空本部第二課内田中佐經由

空補第二〇六號　　昭和十六年六月十四日

陸軍次官殿

航空局長官

首題ノ件當局航空機乘員養成所ニ於ケル所要器材トシテ左記ノ通調辨致度ニ付御繁忙中洵ニ乍恐縮特ニ御配慮相煩度及依頼候也

記

一、品目、員數、納入場所

機種	員數	納入場所
九五式三型練習機完備豫備發動機（九五式一五〇馬力）	二五機	航空局
〃	二基	〃

摘要

陸軍省 昭和 16.7.2 午 文書官
航空本部 16.7.2 付 受

大日本帝國政府

豫備プロペラ（九五式三型用被包式乙型）	一〇本	航空局	
二、希望納期			
九五式三型練習機完備	一五機	昭和一七年四月	
〃	一〇機	昭和一七年五月	
豫備發動機（九五式一五〇馬力）	二基	昭和一七年五月	
豫備プロペラ（九五式三型用被包式乙型）	一〇本	昭和一七年五月	
三、經費支辨	昭和十七年度航空局拂		
四、契約事項			

(1) 本件契約ハ凡テ貴省契約様式ニ據ラレ度
但シ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度

(2) 本件ハ物品完納後代金支拂スル如ク契約セラレ度
尚契約者代理人タルトキハ委任狀添付相成度

五、前諸項以外ニ於テ疑義ヲ生ジタル場合ハ航空局第二部補給課ニ連絡相煩度

陸軍航空本部第二課内田中佐經由

陸軍省受領 壹第三四〇八號

空補第二〇六號　　昭和十六年六月十四日

航空局長官

陸軍次官殿

航空器材（完備機關係）委託調辦ニ關スル件

首題ノ件當局航空機乘員養成所ニ於ケル所要器材トシテ左記ノ通調辦致度ニ付御繁忙中洵ニ乍恐緒時ニ御配慮相煩度及依頼候也

記

一、品目、員數、納入場所

機種	員數	納入場所	摘要
九五式三型練習機完備豫備發動機（九五式一五〇馬力）	二五機	航空局	
	二基	〃	

陸軍

官房控

豫備プロペラ（九五式三型用被包式乙型）	一〇本	航空局	
二、希望納期			
九五式三型練習機完備	一五機	昭和十七年四月	
〃	一〇機	昭和十七年五月	
豫備發動機（九五式一五〇馬力）	二基	昭和十七年五月	
豫備プロペラ（九五式三型用被包式乙型）	一〇本	昭和十七年五月	
三、經費支辨	昭和十七年度航空局拂		
四、契約事項			
1、本件契約ハ凡テ貴省契約據式ニ據ラレ度 但シ代金支拂ハ物品完納後トセラレ度			
2、本件ハ物品完納後代金支拂スル如ク契約セラレ度 但契約者代理人タルトキハ委任狀添付相成度			
五、前諸項以外ニ於テ疑義ヲ生シタル場合ハ航空局第二部輔給課ニ連絡相煩度			

東京小元紙

第三〇

決行（裁決）後回覽	連帶	
長(部)局	長（部）局	
長課	長課	

保存期限	決裁指定	決行指定
十年		管安任

受領番號	件名	大臣
壹第三五五二號	「タイ」國佛印間國境劃定委員會ニ於ケル帝國首席委員並ニ委員會議長ニ関スル件	委

起元廳（課名）	政務次官	官次
外務省		

審案筆記者	書記官	政務官
		回付（決行前）拾年保（決行後）

主務課員	主務課長	主務局長	高級副官	參與官

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
軍務課第壹五號	昭和 年 月 日	昭和拾六年七月拾五日	昭和 年 七月十五日	昭和 年 月 七日

軍	陸	軍

軍事課
參本

陸密

次官ヨリ外務次官宛回答

七月八日附人機密合第二六六八號首題ノ件

貴方意見ニ異存無之ニ付回答ス

陸密第一〇八四號

昭和拾六年七月拾五日

機密

三部ノ一内號

人機密合第二六六八號

昭和十六年七月八日

陸軍次官殿

外務次官

「タイ」國佛印間國境劃定委員會ニ於ケル帝國首席委員竝ニ委員會議長ニ關スル件

曩ニ貴方ヨリ「タイ」國佛領印度支那間國境劃定委員會ニ於ケル帝國委員及補助委員タルヘキ者御推薦有之タル處當省トシテハ右委員トシテ元特命全權公使矢野眞及外務書記官一近ク總領事ニ轉官ノ豫定ニ井上豪ノ兩名ヲ任命方奏請ノ意嚮ナルカ本件全委員五名ノ任命後ハ矢野眞ヲ以テ事實上我方ノ首席委員ト爲シ事務ヲ統轄セシムルコトト致度ク又委員會ニ於ケル議長ハ日本側委員ニ依

陸軍省 昭和16.7.9 午前 大臣官房

外務省 外務大臣官房 785

(日本標準規格B5)

囑スルコトトナリ居ルニ付帝國政府ハ右議長トシテ矢野眞ヲ推薦スルコトヲ「タイ」佛兩國ニ通告スルコトト致度キ處差支無之キヤ至急御回示相成度

尙本件ニ關シテハ貴省及當省ノ事務當局間ニ於テハ既ニ了解濟ニ付爲念申添フ

本信送付先　陸軍省、海軍省

外務省

(日本標準規格B5)

794

機密文書配布票甲

昭和六年七月一日

外務大臣官房文書課長

陸軍次官 殿

左記文書配付スルニ付御査收ノ上領收票御送付相成度シ

機密文書記號番號	件名	一連番號部數
人機密第二六八号	満洲事変に関する国際連盟理事会における日本国代表の演説	自 一 號 至 三 號 一 部

機密

十部ノ内一號

七月十七日

第一三號

南二機密合第二七〇七號
昭和十六年七月十一日

陸軍次官殿

外務次官

華僑工作協議會第一回會議開催通知ノ件

本月十日次官會議決定相成タル華僑對策要綱ニ基キ本月十四日(月)午後一時ヨリ第一回協議會ヲ外務省南洋局會議室ニテ開催スルコトト致タルニ付係官出席セシメラレ度此段御通知申進ス

本信送付先　陸軍、海軍、大藏、拓務、商工、遞信各次官、興亞院總務長官、企畫院次長、情報局次長

陸軍省 昭和16.7.12 前午 大臣官房
陸軍省 昭和16.7.12 文書課 書類掛
外務省 文書課 印

(日本標準規格B5)

806

機密文書配布票甲

昭和十六年七月十一日

外務大臣官房文書課長

陸軍次官殿

左記文書配付スルニ付御査收ノ上領收票御送付相成度シ

機密文書記號番號	南二機密合第二七〇七號
件名	華僑工作協議會第一回會議開催通知ノ件
一連番號部數	自 一 號 至 十一 號 一 部

秘第一三二號
七月十七日
主計
波中
軍事
軍事
閣

大日本帝國政府

拾年保
陸軍省
昭和
16.7.12
午前
大臣官房

官房祕甲第一三〇號
昭和十六年七月十一日

大藏大臣　河田　烈

陸軍大臣　東條英機　殿

昭和十七年度豫算編成ニ關スル件

右本月八日別紙ノ通リ閣議決定相成候條各省ニ於テハ必ズ其ノ趣旨ニ則リ嚴重ニ其ノ方針ヲ勵行セラレ眞ニ時局ニ即應セル戰時豫算ノ編成ニ御協力相成ルト共ニ概算ノ閣議決定前ニ於テハ其ノ內容、金額等ニ付各省共嚴重ニ部內ヲ統制シ責任ヲ以テ秘密ヲ嚴守セラルル樣特ニ御配意相煩度此段申進候

尙昭和十七年度豫算編成方針部外發表ノモノヲモ參考迄ニ添付致置候

陸軍省
16.7.14
午前
主計
陸軍省
16.7.12
軍事課

昭和十七年度豫算編成方針（部外秘）

緊迫セル現下ノ諸情勢ニ對應シ昭和十七年度豫算ノ編成方針ハ之ヲ次ノ如ク定メントス

一、新規計上スベキ事項ハ左ノ諸項ニ限ルモノトス

(一) 軍事費其ノ他軍事ト密接不可分ノ關係ニアルモノ

(二) 防空其ノ他國土防衛上必要ナル施設

(三) 其ノ他戰爭目的遂行ノ爲メ必要缺クベカラザル施設

(四) 食糧確保其他國民生活安定ニ要スル施設

二、既定經費ニ付テモ以上ノ觀點ヨリ之ヲ再檢討シ徹底的削減ヲ爲スモノトス

三、資金、物資及勞務需給ノ現狀ニ鑑ミ豫算ノ編成ニ當リテ資金、物資、勞務等ノ動員諸計畫トノ合致ニ努ムルモノトス

四、軍事費以外ノ經費ノ中重要政策ニ關スルモノニ付テハ豫メ國策ノ綜合的遂行ノ見地ニ於テ閣議ニ於テ之ヲ先議スルモノトス

五、歳入見積ノ適實ヲ期スルト共ニ租税其他普通歳入増加ノ方途ヲ講ジ一般歳入補塡公債ハ之ヲ抑制スルモノトス

六、概算要求豫算編成ノ順序等ハ別紙各項ニ準據スルモノトス

（別紙）

昭和十七年度概算要求順序等ニ關スル件

一、財政計畫ノ策定ニ資スルト共ニ豫算編成事務ノ圓滑ナル進捗ヲ期スル爲別ニ定ムル所ニ依リ標準豫算改編調書及新規要求區分調書ヲ作製提出スルコト

二、物資及勞務ノ需要數量又ハ海外拂トナルベキ經費ハ之ヲ最少限度ニ止ムルト共ニ別ニ定ムル所ニ依リ物資需要調書、勞務需要調書及非物品資海外拂調書ヲ作製提出スルコト

三、各特別會計ニ付テモ右各項ニ準ジ豫算ノ編成ニ當ルベキコト

四、各特別會計ニ於テハ臨時軍事費特別會計又ハ一般會計ニ對シ出來得ル限リ多額ノ繰入ヲ爲ス等ノ方法ヲ講ズルコト

五、概算要求關係書類ノ大藏省ヘノ送付期限ハ左ノ通リトシ必ズ之ヲ嚴守スルコト

	一般會計	特別會計
概算書又ハ概計書	八月十日	
標準豫算改編調書	八月二十日	
新規要求區分調書	八月二十日	
物資需要調書	八月二十五日	
勞務需要調書	八月三十一日	九月三十日
非物品費海外拂調書	八月二十五日	九月二十日

外部發表

（昭和一六、七、八）

昭和十七年度豫算編成方針

緊迫セル現下ノ諸情勢ニ對應シ昭和十七年度豫算ノ編成方針ハ之ヲ次ノ如ク定メントス

一、新規ニ計上スベキ經費ハ國策遂行ノ爲眞ニ緊急已ムヲ得ザル事項ニ限ルモノトス

一、既定經費ニ付テモ以上ノ觀點ヨリ之ヲ再檢討シ徹底的削減ヲ爲スモノトス

一、資金物資及勞務需給ノ現狀ニ鑑ミ豫算ノ編成ニ當リテ資金、物資、勞務等ノ動員諸計畫トノ合致ニ努ムルモノトス

一、軍事費以外ノ經費ノ中重要政策ニ關スルモノニ付テハ豫メ國策ノ綜合的遂行ノ見地ニ於テ閣議ニ於テ之ヲ先議スルモノトス

航空局

(甲)

航空局長官經由

空監第一四六四號

昭和十五年十月十一日

航空局長

陸軍次官殿

右ハ來ル十一日台北發便ヨリ實施スルコトヽ相成候條御了知相成度

台北盤谷線定期航空海口寄航ニ關スル件

陸軍省 昭和 15.10.12 文書課
陸軍省 15.10.14 交通課

青木謙

第三四號

大日本帝國政府

空監第一六六九號

昭和十五年十二月十四日

陸軍次官殿

航空局長官

大日本航空株式會社ニ對シ東京大連線ニ於テ本月二十日ヨリ左記ノ通實施方許可相成タルニ付御了知相成度

記

一、線路　東京大連線東京福岡間

二、寄航地　東京―大阪―福岡

東京大連線中東京大阪間復活ニ關スル件

陸軍 15.12.16 第一課 交通

昭和 15.12.15 前午 航空局

大日本帝國政府

三、使用機　フォッカー式スーパーユニバーサル型

四、發着日時　毎日一往復

下り便　東京發　八時〇〇分　大阪着　一〇時五〇分
　　大阪發　一一時〇〇分　福岡着　一四時一〇分
上り便　福岡發　八時〇〇分　大阪着　一〇時五〇分
　　大阪發　一一時一〇分　東京着　三時四〇分

五、開始期日　昭和十五年十二月二十日

第三五號

七月十八日

交通

閲

大日本帝國政府

有添付

空監第一六八八號

昭和十二年十二月二十日

航空局長官

陸軍 昭和 15.12.21 大臣

陸軍次官殿

大日本航空株式會社ニ對シ東京北京線中福岡北京間就航時ヲ日出後ノ關係ニ因リ別紙ノ通變更方許可相成タルニ付御了知相成度

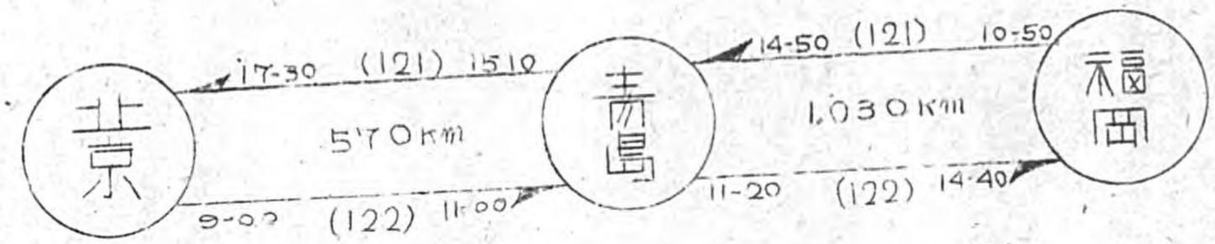
東京北京線就航時變更ニ關スル件

陸軍 15.12.21 交通課

東京-北京線中福岡-北京間

変更ダイヤグラム

自15.12.~~10~~ 23　至16.~~5.31~~ 2.28



備考 1. ( )内数字ハ便名ヲ示ス
2. 使用機種 (DC2型)

大日本航空株式会社

第三六號

決行（裁決）後回覽	連帶	保存期限	決裁指定	決行指定	政務次官	官次
長(部)局	長（部）局	二年				委
長課	長課					

大臣	件名	受番	領號
委	思想實務家會同開催ニ關スル件	壹受第三三六七號	

參與官	高級副官	主務局長	書記官	副主務官	主務課長	主務課員

主務局課 番號	受領	提出	大臣官房 受領	了結
軍務課第五八號	昭和 年 月 日	昭和參年七月壹日	昭和 年 七月一日	昭和 七月十八日

政務官書記官 回付（決行前）

（決行後）

起元廳（課名） 司法省

審案筆記者 陸軍

次官ヨリ關東軍參謀長宛照會

（陸滿密）

首題ノ件ニ關シ司法省ヨリ別紙司法省刑事局秘第一二〇五號寫ノ通中出アリタルニ付滿洲國司法部關係者ノ參列方ニ關シ配慮相煩シ度

追テ參列者決定ノ上ハ官氏名通報相成度

陸滿密第五五一號

昭和拾六年七月弐日

大日本帝國政府

司法省
刑事局 秘第一二〇五號
昭和十六年六月二十八日

陸軍次官 木村兵太郎殿

司法次官 三宅正太郎

思想實務家會同開催ニ關スル件

來ル七月十七日及十八日ノ兩日當省ニ標記會同開催可相成候處思想事務ハ滿洲國ト特ニ緊密ナル連絡協調ヲ以テ處理スルノ要アルニ依リ該會同ニ同國司法部關係者ノ參列有之樣可然御取計相成度此段得貴意候

追而參列者決定ノ上ハ其ノ所屬廳、職、名等七月十日迄ニ當省着ノ御見込ヲ以テ御通知相煩度候

陸軍省 昭和 16.6.29 前午 大臣官房
陸軍省 16.6.30 1008 軍務課
陸軍省 第三六七

寫

陸軍省
受領 壹第三六七號

司法省
刑事局 祕第一二〇五號

昭和十六年六月二十八日

司法次官 三宅正太郎

陸軍次官 木村兵太郎 殿

思想實務家會同開催ニ關スル件

來ル七月十七日及十八日ノ兩日當省ニ標記會同開催可相成候處思想事務ハ滿洲國ト特ニ緊密ナル連絡協調ヲ以テ處理スルノ要アルニ依リ該會同ニ同國司法部關係者ノ參列有之樣可然御取計相成度此段得貴意候

追而參列者決定ノ上ハ其ノ所屬廳、職、名等七月十日迄ニ當省着ノ御見込ヲ以テ御通知相煩度候

陸軍

決行（裁決）後回覧	連帶	決行指定	決裁指定	保存期限
長(部)局	長（部）局	内閣書記官長	三年	

受領番號	件名	大臣	政務次官	官次
臺受第三三六七號	思想實務家會同開催ニ關スル件			

參與官	高級副官	主務局長	書記官	副主務官	主務課長	主務課員

起元廳（課名）	司法省
審案筆記者	陸軍

主務局課	受領	大臣官房	受領	結了
番號	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和拾六年七月拾五日	昭和 年 月 日
軍務記第高號		七月十五日		

課長	課長

政務官書記官回付（決行前）

（決行後）

次官ヨリ司法次官宛回答（陸満密）

六月二十八日附司法省秘第一二〇五號ヲ以テ御照會ニ係ル首題會同ニ滿洲國側ヨリ左記ノ者ヲ參列セシムル旨申越有之候ニ付御承知相成度

左記

哈爾賓高等檢察廳檢察官眞田康平

陸滿密第六三八號　昭和拾六年七月拾六日

軍務

滿秘

關參滿發第二七八八號

思想實務家會同ニ關スル件回答

昭和十六年七月十二日　關東軍參謀長　吉本貞一

陸軍次官　木村兵太郎　殿

七月二日附陸滿密第五五一號ニ依ル首題ノ件ニ關シ滿洲國側ヨリ左記ノ者ヲ參列セシムヘキニ付承知相成度

左記

哈爾濱高等檢察廳檢察官　眞田康平

陸軍省 昭和 16.7.14 大臣官房 午前

陸軍 16.7. 1008 軍務課

壹 三三六 其一

（大連高木銘）

1. 3367

第三七號

七月十八日

主計

大日本帝國政府

藏計第八五八號

昭和十六年七月三日

大藏次官　廣瀨豐作

陸軍大臣　東條英機殿

昭和十六年度豫算提要別冊供高覽候

拾年保

陸軍省
16.7.3.
大臣官房

陸軍省
16.7.3.
午後
主計課

別冊
當課ニ保管ス
七月十八日
主計課

第三八號

保存期限 永久

決裁指定

決行指定

拾年保

政務次官 参與官 回附 決裁 前後 連帶課名

受領番號 壹第三五二〇號

件名 航空兵器貸渡ノ件

決行(決裁)後回覧課名

起元廳(課)名 航空局

陸軍

大臣 委

次官 委

政務次官

参與官

高級副官

書記官

主務副官 官房御用係主計

審査者 筆者 案記

總務部長

主務部長

庶務課長

主務課長

副官

主務部員

本部長

主務 局長

課長

主務 局長

課長

大臣官房

番號	受領	提出	受領	結了
航本發第九一四號	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 七月十六日	昭和 年 七月十八日

連帶

決行(決裁)後回覧

陸普

陸軍次官ヨリ航空局長官ヘ　　通牒

七月五日附空補第三二七號照会ニ係ハル首題ノ件ハ別紙ノ通陸軍航空本部長ヲシテ貸渡方取計ハシメラルルニ付承知相成度、

追テ本件所要経費並ニ保管ノ責ハ凡テ借用者側ノ負擔トシ現品授受ノ細部ニ関シテハ直接協議セラレ度申添フ

陸普第五四一三號　昭和拾六年七月拾六日

陸軍航空本部長　　達

別紙兵器ヲ航空局ニ貸渡方取計フヘシ

但シ本件所要経費並ニ保管ノ責ハ凡テ借用者ノ負擔

陸普第五四一三號　昭和拾六年七月拾六日

トシ現品授受ノ細部ニ関シテハ直接協議スルモノトス

陸軍

別紙

品目	員數	貸渡期間	摘要
クレームKL25D型飛行機	一	昭和十七年三月三十一日迄	

備考

昭和十六年七月五日附空補第三二七五號ニ對スル分トス

官房控 陸軍

東京小津桝

大日本帝國政府

空補第三二七號　　昭和十六年七月五日

陸軍次官殿　　航空局長官

航空器材借用ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ大日本飛行協會々長田邊治通ヨリ別紙寫ノ通願出有之候ニ付テハ昭和十四年十二月十二日附陸普第八〇三九號ヲ以テ當局ニ借用ノ上日本帆走飛行聯盟ニ貸付中ノ該器材ヲ引續キ左記ノ通當局ニ借用ノ上改メテ同協會ニ貸與スルコト、致度ニ付何分ノ御配慮相煩度及依賴候也

記

一、クレムL 5D K 2型飛行機

一、借用期間　昭和十七年三月三十一日迄

有禁閉者兼任事務官長
壹第二五二〇
昭和16年7月7日 午後 大臣官房
航空本部 16.7.-8 受付

寫 大日本帝國政府

飛訓本第七二號

昭和十六年六月二十一日

大日本飛行協會會長　田　治道

航空局長官　手島　榮　殿

飛行機貸與相成度件御願

曩ニ舊日本帆走飛行聯盟ニ於テ陸軍航空本部ヨリ借用致居候左記飛行機本會教育訓練用トシテ貸與相成樣御取計相煩度此段及御願候

記

一、クレムKL二五型　一機

第三九號

大日本帝國政府

空民第一一二號　　昭和十六年六月二十五日

航空局長官

陸軍次官殿

朝日新聞社ノ日滿通信連絡飛行ニ關スル件

朝日新聞社々長村山長擧ニ對シ右件別紙要領ニ依リ實施方左記條件ヲ附シ許可相成リタルニ付御了知ノ上可然御取計相成度

記

航空局陸軍兼任事務官經由

閲有添付

拾年間

陸軍省受領 壹第三五二

陸軍省 16.7.11 673 防衛課

陸軍省 16.7.9

陸軍省 16.7.8 1060 軍務課

昭和 16.7.7 後午 官房

航空本部 16.7.11 受付

七月十八日

大日本帝國政府

一、航空路ハ新義州ー奉天ー大連ヲ連ヌル線ニ依ルヘシ

但シ本溪湖、撫順及鞍山停車場ヲ中心トスル半徑六粁以内ノ地域上空ノ飛行ヲ禁止ス

二、發着日時ニ付テハ豫メ奉天航空所長宛ニ屆出ツヘシ

三、稅關檢査ハ往復共奉天北飛行場ニ於テ之ヲ受クヘシ之カ爲其ノ發着日時ニ付テハ豫メ奉天稅關長ニ屆出ツヘシ

四、其ノ他ノ事項ニ付テハ一般法規ヲ遵守スヘシ

大日本帝國政府

朝日新聞社日滿通信連絡飛行實施要領

一、目的　新聞寫眞原稿空輸ノ爲

二、期間　昭和十六年六月二十五日ヨリ向フ六ヶ月間

三、航空路　東京ー大阪ー福岡ー蔚山ー京城　奉天ー大連ー天津

（復航ハ往航ノ反對トス）

四、使用機

(イ)セヴアスキー式（沙鳳）　BAAN

〃　（海鳳）　BAAQ

(ロ)三菱式鵬型（鵬）　BAAE

(ハ)三菱式雁型（朝鳳）　BAAL

(ニ)三菱式雁二型（天鳳）　BAAO

(ホ)三菱式MC二〇型（朝雲）　BAAP

大日本帝國政府

(一)川崎式九八C型（如月）　BAAR

五乘員

一等飛行機操縱士	新野百三郎	
一等航空士	飯沼正明	
同	長友重光	
同	川崎一	
一等飛行機操縱士	中島忠英	
二等航空士	小俣藤雄	
同	池田和夫	
同	塚越賢爾	
航空機ノ關係	島崎清	
無線通信士		

大日本帝國政府

同　堀　江
同　水　田
同　近　藤
同　中　島
同　土　壁
航空機々關士　仙　野
同　富　澤
同　木　島
同　早川村　丸
同　田　川
無線通信士　山　本

正　紀　金
貞　憲　元
利　幸　幸
次　敏次　幸
男　道　敏
三　司郎　三
彦　春　志

注意
（本審案用紙 拾年保 内保存ノモノニ使用スルモノトス）

陸軍

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長	川原

第四〇號

政務次官参與官	決裁前後	連帶課名
回付		

受番	領號	件名
老第三六五三號		軍用資源秘密保護法ノ主ナル内容ニ関スル件

決行(決裁)後回覽課名	起元廳(課)名
	鉄道省

大臣官房		主務局課			
結了	受領	提出	受領	番號	大臣
昭和 年 七月十八日	昭和 年 七月十五日	昭和十六年七月十五日	昭和十六年七月十四日	防衛甲第三六五號	委

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

政務次官	次官	主務局長
	委	代

参與官	高級副官	主務課長

書記官	主務副官 官房御用掛 主計	主務課員

審案筆記者

陸密

大臣ヨリ鮮道大臣ヘ回答

七月十四附鮮軍秘第二〇九號ヲ以テ協議ニ係

ル前題ノ件當方ニ於テハ許可相成差支無

之ニ付此段及回答候也

陸密第二〇九〇號　昭和拾六年七月拾六日

陸軍省 壹第三六五三

鐵軍秘第二〇九號

昭和十六年七月十四日

鐵道大臣 小川郷太郎

陸軍大臣 東條英機殿
海軍大臣 及川古志郎殿
（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關シ別紙願出有之候處同行爲ス當省工場ヘ機關車委託修繕ノ爲已ムヲ得ザルモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

陸軍省 昭16.7.14 文書課 官房
陸軍省 16.7.14 657 防衛課
秘

立入許可願

本籍 熊本縣鹿本郡山鹿町大字山鹿三〇〇番地
住所 同所
職業 鹿本鉱業株式會社
代表取締役 古田潔
六十五歳

昭和十六年六月二十三日

鉄道大臣 小川郷太郎殿

左記ノ通リ立入致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的 委託修理機關車ニ付檢査並ニ打合ノ爲

二、工場事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱 小倉市板櫃、門司鉄道局小倉工場

一、場　機關車職場

一、期　間　自昭和十六年七月一日
至昭和十六年十二月三十一日

一、作業者ノ住所　熊本縣鹿本郡山鹿町大字山鹿一二〇番地

氏名及年齢　田中實作　五十四歳
熊本縣鹿本郡山鹿町大字山鹿一五五三番地
松田末男　六十二歳

第四一號

保存期限 十年

決裁指定 局長委任

決行指定

受番 領號 壹第二五一〇號

件名 發明展覽會出品ニ関スル件

政務次官 参與官 回付 決裁 前後 連帶課名 燃、銃、衣、醫、衛、

拾年保

起元曆(課)名 特許

回覽課名 決裁(決裁)後

大臣官房

結了	領受	提出	領受	番號
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和十六年 五月十八日	第一三號

主務局課

大臣 委

政務次官

次官 委

主務局長 代

高級副官

主務課長

主務副官 官房御用掛主計

書記官

審査 筆記者

決行 決裁 回覽

局長

課長

連帶 局長

課長

衣 燃 銃 砲 料 糧

醫 衛 事 務

主務課員

山崎

陸軍省 16.5.23 燃料課

陸軍省 16.5.21 醫事課

陸軍省 16.5.21 衛生課

陸軍省 16.5.-1 銃砲課

七月十九日

五月廿日

陸軍

陸普　副官ヨリ陸軍航空本部總務部長、陸軍兵器本部總務部長、陸軍技術本部總務部長、陸軍科学研究所長、陸軍糧秣本廠長、陸軍被服本廠長、陸軍製絨廠長、陸軍燃料廠長、陸軍衛生材料廠長、陸軍軍醫学校長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ特許局ヨリ別紙通申越アリタルニ付軍事上秘密ニ属スル発明又ハ考案以外ノモノニシテ適當トスルモノアラハ出品方取計ハレタク依命通牒ス

追而出品ニ関スル詳細ニ付テハ直接特許局ト協議セラレタク申添フ

陸普第三八七七號　昭和拾六年五月廿六日

陸普　次官ヨリ　特許局長官ヘ回答

件

五月十六日附一六特發第四號ヲ以テ御照會ノ件ニ係ル首題ノ趣別紙寫通関係ノ向ヘ通牒シ置キタルニ付御了知相成度此段及回答候也

陸普第三八七七號　昭和拾六年五月廿六日

高

發明展覽會出品ニ關スル件

陸軍航空本部總務部長、陸軍兵器本部總務部長、陸軍技術本部總務部長、陸軍科學研究所長、陸軍糧秣本廠長、陸軍被服本廠長、陸軍製絨廠長、陸軍燃料廠長、陸軍衛生材料廠、陸軍々醫學校長ヘ通牒

副官ヨリ

首題ノ件ニ關シ特許局ヨリ別紙ノ通申越アリタルニ付軍事上秘密ニ屬スル發明又ハ考案以外ノモノニシテ適當トスルモノアラハ出品方取計ハレ度依命通牒ス

追而出品ニ關スル詳細ニ付テハ直接特許局ト協議セラレ度申添フ

一六特發展第四號

昭和十六年五月十六日

特許局長官　大貝晴彦

陸軍省

次官　木村兵太郎殿

發明考案ノ普及發達ヲ圖ル爲當局ニ於テハ年々發明展覽會ヲ開催致居候處本年ハ其ノ第九回展覽會ヲ來ル十月一日ヨリ十四日ニ至ル二週間ニ亘リ東京市麹町區三年町一番地特許局陳列館内ニ於テ開催可致候ニ付テハ別紙印刷物ニ付委細御了知ノ上出品斡旋方可然御高配相煩度此段得貴意候也

陸軍省 昭和 16.5.18 文書課
陸軍省 16.5.18 第13號 器材課

解説書

出品人

番號	品名	特許、登録又ハ出願公告ノ番號	發明又ハ考案ノ名稱	出品物ノ説明				
				用途、效能、特徴等	賣價	製造、販賣數量	販路	其ノ他

日本標準規格B5(182×257mm)

注意

一、解説書ハ各出品毎ニ之ヲ提出スベシ
二、番號ノ欄ニハ各出品毎ニ出品申込書記載ノ番號ト同一ノ番號ヲ記載スルモノトス
三、解説書ニハ成ルベク「カタログ」其ノ他ノ參考資料ヲ添附スベシ

出品申込書

私儀特許局發明展覽會規程ニ依リ左記ノ通出品致度此段及申込候也

昭和　年　月　日

住所　　（電話番號　　）

假住所

出品人　　（電話番號　　）

特許局長官　殿

記

番號	品名	特許、登錄又ハ出願公告ノ番號	發明又ハ考案ノ名稱	出品物ノ種類	數量	發明者又ハ考案者ノ住所氏名	權利者ノ住所氏名	出品ノ權限	希望	備考

出品計畫書

番號	品名	出品物ノ種類	數量	出品物ノ容積及重量	動力使用ノ要否及動力ノ大サ	備考

陳列ニ要スル棚ノ小間數又ハ床面坪數

陳列棚	小間	床面	坪

注意

一、番號ノ欄ニハ出品申込書記載ノ番號ト同一ノ番號ヲ記載スルモノトス

二、二以上ノ出品物ヲ差出ス場合ニ於テハ其ノ各ニ付出品物ノ容積(幅、奥行、高サ)及重量、動力使用ノ要否及動力ノ大サ等ヲ記載スベシ但シ同一物二以上ヲ差出ス場合ニ於テハ其ノ一ニ付記載スベシ

三、動力ノ大サハ馬力又ハ「キロワット」ト電壓トヲ記載スベシ

四、出品物ニ關シ實演ヲ希望スルモノハ其ノ旨及實演ノ態樣ノ備考欄ニ記載スベシ

五、陳列棚ノ一小間ハ奥行〇、八六「メートル」間口〇、九六「メートル」高サ二、〇五「メートル」トシ床面一坪ハ一、八一八「メートル」平方トス

六、出品物ノ荷造、運送、陳列等ニ關スル費用ハ出品人ノ負擔ナルモ小間料、床面料ハ之ヲ徵收セズ

日本標準規格 B5 (182×257mm)

【記載例】

出品申込書

私儀特許局發明展覽會規程ニ依リ左記ノ通出品致度此段及申込候也

昭和　年　月　日

住所　大阪市此花區島屋町一〇〇番地
（電話番號南一二三四番）

假住所　東京市麹町區丸ノ内一丁目二番地　山田三郎方
（電話番號丸ノ内四三二一番）

出品人　山田一郎　㊞

特許局長官　大貝晴彦　殿

記

番號	品名	特許、登錄又ハ出願公告ノ番號	發明又ハ考案ノ名稱	出品物ノ種類	數量	發明者又ハ考案者ノ住所氏名	權利者ノ住所氏名	出品ノ權限	希望	備考
一	織機	特許第一三四五六號（米國特許九六六四號）	織機ノ運轉停止裝置	見本	一點	出品人ニ同ジ	同上			
二	織機	實用新案登錄第一三五七九〇號	經糸送出裝置	見本	一點	京都市中京區四ノ原京町四番地　白木松雄	京都市左京區吉田下阿達町　松阪越三	實施權	出資	第十條第二項ノ規定ニ依リ假ニ圖面三枚ヲ差出ス
三	防火塗料	特許第一三〇〇三號（獨逸特許第三〇〇一三號）	防火塗料製法	圖解見本	三枚一點	名古屋市中京區桑町一丁目一番地　金田銀一郎	東京市日本橋區室町二丁目一番地　日滿塗料株式會社	制限付移轉ノ特許權		
四	蓄電池	昭和八年特許出願公告第二五八一號	蓄電池電極板	雛形	三點	神戸市葺合區脇濱町一丁目一番地　雨宮雷太郎	出品人ニ同ジ	權利讓渡	販賣	
五	浴衣地	意匠登錄第五六〇〇〇號	水玉模樣浴衣地	見本	一點	東京市神田區田代町四番地　兩國花子	出品人ニ同ジ			何レモ送付ヲ受ケ度

一　番號ノ欄ニハ二以上ノ發明考案ニ付出品ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ發明考案ヲ區別スル番號（例ヘバ（一）（二）ノ如キ）ヲ記載スルモノトス

二　品名ノ欄ニハ出品物ノ普通名稱（例ヘバ「時計」「織機」ノ如キ）ヲ記載スルモノトス

三　二以上ノ發明考案ニ關シ一ノ出品物ヲ差出ス場合ニ於テハ品名ノ下ニ各發明考案ノ特許、登錄又ハ出願公告ノ番號等ヲ一括シテ記載スベシ

四　外國ノ特許又ハ登錄ニ係ルモノニ付テハ特許、登錄又ハ出願公告ノ番號ノ欄ニ其ノ特許又ハ登錄ノ國名及番號ヲ記載スベシ

五　出品物ノ種類ノ欄ニハ見本、雜形、圖面又ハ圖解ノ何レナリヤヲ記載スルモノトス

六　出品ノ權限ノ欄ニハ出品人ガ特許權者、實用新案權者、意匠權者又ハ出願人ニ非ザル場合ニ於テハ制限附移轉ノ特許權、實施權等出品ノ權限ノ根據ヲ記載スルモノトス

七　特許權等ノ讓渡、實施權ノ設定等ヲ希望シ又ハ實施事業ニ對スル出資者、特許品ノ販賣者等ヲ求ムル場合ニ於テハ希望ノ欄ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

八　左ノ事項ハ之ヲ備考欄ニ記載スベシ

（イ）第十條第二項ノ規定ニ依リ假リニ雜形又ハ圖面ヲ差出ス場合ニ於テハ其ノ旨

（ロ）出品物ノ搬出ノ方法（出頭ノ上引取ルヤ又ハ運送ニ依リ送付ヲ受クルヤノ別）

特許局發明展覽會規程

（昭和八年八月商工省告示第四十二號
改正昭和九年六月商工省告示第二十九號
昭和十三年四月商工省告示第百五號）

第一章　總則

第一條　發明、實用新案及意匠ニ關シ其ノ普及發達ヲ圖ル爲毎年一回特許局ニ於テ發明展覽會ヲ開ク

會期、會場其ノ他ノ事項ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第二條　削除（昭和九年商工省告示第二十九號ヲ以テ本條ヲ削除）

第三條　出品物ハ參考品ヲ除クノ外鑑査ニ合格シタルモノニ限リ之ヲ陳列ス

第四條　出品物ノ荷造、運送、陳列等ニ關スル費用ハ總テ出品人ノ負擔トス

第五條　本會ハ出品物ノ亡失、毀損、汚染其ノ他ノ損害ニ對シ其ノ責ニ任ゼズ

第六條　特許局長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ出品物ヲ撮影又ハ模寫スルコトヲ得ズ（昭和九年商工省告示第二十九號ヲ以テ本條第一項中改正）

特許局ハ出品物ヲ撮影若ハ模寫シ又ハ之ヲ刊行スルコトアルベシ

第六條ノ二　陳列品（參考品ヲ除ク）ノ出品人ニ對シテハ出品證ヲ下付ス（昭和九年商工省告示第二十九號ヲ以テ本條追加）

第七條　陳列品ハ特許局ニ於テ買上グルコトアルベシ

特許局ニ於テ買上グベキ陳列品ハ鑑査委員ノ意見ヲ聽キ之ヲ選定ス

第二章　出品

第八條　出品物ハ發明又ハ考案ニ關スル見本、雛形、圖面又ハ回解ニ限ル

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ得ズ

（昭和九年六月商工省告示第二十九號
昭和十三年四月商工省告示第百五號ヲ以テ本條改正）

一　本會ニ陳列シタルコトアルモノト同一ノ發明又ハ考案ニ關

第十條　商工大臣ハ鑑査委員中ヨリ鑑査委員長一名ヲ命ズ

第二十條　鑑査委員長ハ鑑査ノ事務ヲ統理シ鑑査ノ成績ヲ特許局長官ヲ經由シ商工大臣ニ報告ス

第二十一條　削除（昭和九年六月商工省告示第二十九號ヲ以テ本條削除）

第二十二條　鑑査ノ際出品物ノ容積、重量又ハ點數ノ制限ヲ爲シ又ハ出品計畫ノ變更ヲ命スルコトアルベシ

第二十三條　出品人ハ鑑査ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第四章　雜則

第二十四條　出品人ハ陳列品ヲ閉會後三日以内ニ搬出スベシ

前項ノ期間内ニ搬出セザルトキハ特許局ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトアルベシ

第二十五條　觀覽時間ハ會期中毎日午前九時ヨリ午後五時迄トス

但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルベシ

第二十六條　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノハ入場ヲ禁ジ又ハ退場セシムルコトアルベシ

第二十七條　觀覽人ハ靜肅ヲ旨トシ且ツ係員ノ指揮ニ從フベシ

別記（樣式）（昭和九年六月商工省告示第二十九號
昭和十三年四月商工省告示第百五號ヲ以テ別記（樣式）改正）

出品申込書

私儀特許局發明展覽會規程ニ依リ左記ノ通出品致度此段及申込候也

年　月　日

住所
電話番號
假住所（支店又ハ營業所ノ所在地、知人ノ住所其ノ他ノ開催地附近ニ於ケル通信ヲ受クベキ場所）
電話番號
出品人　氏　名　㊞

特許局長官宛

スルモノ

二　特許、登録又ハ出願公告ニ係ラザル發明又ハ考案ニ關スルモノ

三　秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スル虞アルモノ

第十條　出品ヲ爲サントスル者ハ別記樣式ノ出品申込書、解說書、出品計畫書及出品物ヲ特許局ニ差出スベシ

特許局長官特別ノ事由アリト認ムルトキハ出品セントスル見本又ハ雛形ニ代ヘ其ノ雛形又ハ圖面ヲ差出スコトヲ許可スルコトヲ得

第十一條　出品申込書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ其ノ番號ヲ出品人ニ通知スベシ

第十二條　第十條第二項ノ規定ニ依リ雛形又ハ圖面ヲ差出シタル場合ニ於テ鑑査合格ノ通知アリタルトキハ出品人ハ出品物ヲ會場ニ搬入スベシ

鑑査委員前項ノ出品物ガ第十條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル雛形又ハ圖面ト同一ナラズト認メタルトキハ鑑査合格ヲ取消スコトヲ得

第十三條　出品物ヲ受理シタルトキハ受領證ヲ交付ス

第十四條　鑑査不合格又ハ鑑査合格ノ取消ノ通知アリタルトキハ出品人ハ運帶ナク其ノ出品物ヲ搬出スベシ

通知ヲ發シタル日ヨリ十五日ヲ經ルモ之ヲ搬出セザルトキハ特許局ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトアルベシ

第十五條　出品人ハ陳列ノ位置配列等ニ對シ異議ヲ申立フルコトヲ得ズ

第十六條　出品人ハ會期中陳列品ヲ搬出スルコトヲ得ズ

第十七條　第八條、第九條、第十條第二項及第十二條ノ規定ハ參考品ノ出品ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三章　鑑査

第十八條　出品物ノ鑑査ハ商工大臣ノ任命又ハ囑託スル鑑査委員之ヲ行フ

記

番號	品名	特許、登錄又ハ出願公告ノ番號	發明又ハ考案ノ名稱	出品ノ種類	發明者又ハ考案者ノ住所氏名	出品者ノ住所氏名	出品ノ機關	希望ノ價格	備考

一　番號ノ欄ニハ二以上ノ發明考案ニ付出品ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ發明考案ヲ區別スル番號（例ヘバ（一）（二）ノ如キ）ヲ記載スルモノトス

二　品名ノ欄ニハ出品物ノ普通名稱（例ヘバ「時計」、「織機」ノ如キ）ヲ記載スルモノトス

三　二以上ノ發明考案ニ關シ一ノ出品物ヲ差出ス場合ニ於テハ品名ノ下ニ各發明考案ノ特許、登錄又ハ出願公告ノ番號等ヲ一括シテ記載スベシ

四　外國ノ特許又ハ登錄ニ係ルモノニ付テハ特許、登錄又ハ出願公告ノ番號ノ欄ニ其ノ特許又ハ登錄ノ國名及番號ヲ記載スベシ

五　出品物ノ種類ノ欄ニハ見本、雛形、圖面又ハ圖解ノ何レナリヤヲ記載スルモノトス

六　出品ノ權限ノ欄ニハ出品人ガ特許權者、實用新案權者、意匠權者又ハ出願人ニ非ザル場合ニ於テ制限附移轉ノ特許權、實施權等出品ノ權限ノ根據ヲ記載スルモノトス

七　特許權等ノ讓渡、實施權ノ設定等ヲ希望シ又ハ實施事業ニ對スル出資者、特許品ノ販賣者等ヲ求ムル場合ニ於テハ希望ノ欄ニ其旨ヲ記載スベシ

八　左ノ事項ハ之ヲ備考ノ欄ニ記載スベシ

（イ）參考品トシテ出品セントスルモノニ付テハ其ノ旨

（ロ）第十條第二項ノ規定ニ依リ假ニ雛形又ハ圖面ヲ差出ス場合ニ於テハ其ノ旨

（ハ）出品物ノ搬出ノ方法（出頭ノ上引取ルヤ又ハ運送ニ依リ送付ヲ受クルヤノ別）

陸技本調甲第二六號

發明展覽會出品ニ關スル件通牒

昭和十六年六月二十三日　陸軍技術本部總務部長　藤室貞輔

陸軍省副官　川原直一殿

五月二十六日附陸普第三八七七號通牒ニ係ル首題ノ件適當ナル發明考案品無之ニ付承知相成度

陸軍
昭和
16.6.24
前午
大臣官房

陸軍
16.6.24
第18
調査課

巻二五〇號一

巻ノ40

5.28

陸兵企甲第九五五號

昭和十六年七月十五日

陸軍兵器本部總務部長國武三千雄

發明展覽會出品ニ關スル件通牒

陸軍省副官 川原直一殿

五月二十六日附陸普第三八七七號ヲ以テ通牒アリタル首題ノ件調査ノ結果適當ナル出品物無之ニ付承知相成度

陸軍兵器本部總務部長

陸軍省 16.7.16 大臣官房前

陸 16.7.16 第42號 兵器課

陸軍

日本標準規格 B——5

事件処置ずみニ付返戻ス

第四二號

七月十九日

閲

秘

防衛

拾年保

内務省發畫第五九號

昭和十六年六月六日

内務次官

陸軍次官殿

陸軍省 昭和16.6.7 前午 大臣官房

陸軍省 16.6.7 防衛課

標記ノ訓練ノ成果ニ關スル内務大臣ノ講評

西部防空訓練講評寫送付ノ件

別紙寫ノ通ニ有之候條此段及送付候也

秘

西部防空訓練内務大臣講評

去ル三月三十一日ヨリ四月四日ニ至ル五日間九州各縣（除沖縄縣）ニ於テ行ハレマシタ防空訓練ハ陸海軍ノ行フ訓練ニ則應シテ主トシテ監視通信、警報傳達及燈火管制ニ付之ヲ實施シタノデアリマスガ關係各位ノ熱心ナル努力ト一般ノ協力トニ依リマシテ概シテ良好ナル成果ヲ修メ茲ニ無事終了スルヲ得マシタコトハ邦家ノ爲洵ニ欣快ニ堪ヘナイトコロデアリマス。以下訓練ニ對スル講評ヲ申述ベ將來ノ研究改善ニ資シ度イト思ヒマス。

第一　精神訓練ノ徹底

現下緊迫セル世界ノ諸情勢特ニ歐洲動亂ニ於ケル熾烈ナル空襲狀況等ニ刺戟セラレ各種防空機關ハ勿論一般民モ亦時局下防空ノ緊要性ヲ深ク認識スルニ至リ進ンデ訓練ニ參加スルノ熱意ヲ示スト共ニ一朝有事ニ對處スル心構ノ錬成等ニ付眞劍ニ考慮ヲ廻ラス者ノ著シク增加シマシタコトハ甚ダ喜バシキ現象デアリマス。

然シ乍ラ一部ニハ未ダ防空訓練ヲ以テ警防團或ハ隣組等ノ一行事ナルガ如ク思惟シ殆ド顧ミザル者或ハ僅カ數日ノ訓練ニ依ル不便ニ對シ不平不滿ノ口吻ヲ洩ス者等ヲ見受ケマシタコトハ遺憾トスルトコロデアリマス。

空襲下最惡ナル事態ノ下ニ於テ國民ノ旺盛ナル精神力ガ如何ニ必要デアルカハ喋々ヲ要シナイノデアリマス。今後防空ハ國民ノ義務ナル點ヲ一層强調シ之ガ徹底ヲ圖ルト共ニ一朝有事ニ對處スル確固不拔ノ精神力ノ涵養ニ付キマシテ一層ノ努力ト關心トヲ寄セラレンコトヲ切望致シマス。

第二　設備資材ノ整備

防空ノ完璧ヲ期スル爲ニハ防空精神ノ高揚ニ努ムルト共ニ防空ノ必要ナル設備資材ノ整備ヲ圖ルコトガ特ニ緊要ト存ジマス。今ヲ訓練ニ於キマシテモ各縣共訓練要綱ニ則リ燈火管制用具ノ整備、サイレンノ增設、電話ノ新設、貯水槽ノ築造、ポンプノ購入等ニ

付配意セラレマシタコトハ甚ダ心強ク感ズル處デアリマス。御承知ノ通リ現下我國ニ於ケル防空諸施設ハ甚ダ寒心ニ堪ヘナイ狀況ニアリマシテ急速ニ之ヲ整備シナケレバナラナイト思フノデアリマス。之ガ整備ニ當リマシテハ各方面ニ亘リ相當困難ナル事情ノ伴フコトガ豫想セラルルノデアリマスガ如何ナル難關モ之ヲ突破スル意氣ヲ以テ施設ノ充實强化ニ邁進セラルル樣今後格段ノ配意ヲ希望スル次第デアリマス。

第三　監視通信

各監視隊ハ概ネ所定ノ時間内ニ配置ヲ完了シ又一般監視隊員ハ克ク其ノ職責ノ重大ナルヲ自覺シ連日連夜ニ亘リ緊張シテ服務シ假想敵機ノ捕促ト情報通信ノ迅速ヲ期スルニ努メ相當良好ナル成績ヲ示シタノデアリマス。然シ乍ラ依然隊員ノ異動頻繁ニ行ハルル爲監視通信技能ノ著シク拙劣ニシテ其ノ勞苦ニ比シ實績ノ伴ハザルモノ等モアリマシタ。今後監視通信技能ノ向上ニ付一層研鑽ヲ

積ムト共ニ之ニ必要ナル設備資材ノ充實ニ努メ監視通信ノ萬全ヲ期スル樣希望致シマス。

海上ニ於ケル監視通信業務ニ付テハ各縣共相當努力ノ跡ハ認メラルルノデアリマスガ其ノ成績ハ全般的ニ未ダ以テ良好トハ申サレナイノデアリマス。之ガ重要性ニ鑑ミ今後一層創意工夫ヲ凝シ萬全ヲ期スル樣配意セラレ度イト思フノデアリマス。

第四　警報傳達

今次訓練ニ際リ市町村中ニハ新ニ號報器ヲ設置シ又ハ從來ノ傳達方法ニ改善ヲ加フル等警報傳達ノ萬全ヲ期スルニ努メタル爲之ガ傳達所要時間ハ前回ニ比シ全般的ニ短縮セラレマシタコトハ洵ニ欣快ニ堪ヘナイトコロデアリマス。然シ乍ラ通信設備ノ不備ナ一部山間僻陬ノ部落等ニシテ何等ノ工夫モ凝サズ舊態依然タル傳達方法ヲ用フル地方ニ於キマシテハ今尙相當時間ヲ要スルモノアリマシタ。之等ノ地方ニ於テハ今後充分研究工夫ヲ積マレン

トヲ希望致シマス。

海上船舶漁舟ニ對スル警報傳達ニ付キマシテハ掲燈信號及吹流信號ノ活用等ニ依リマシテ其ノ成績ハ順次向上サレツツアルノデアリマスガ一部ニハ其ノ信號方法ヲ熟知セザル爲全信號ニ依ル行動ヲ躊躇セルモノ等ヲ認メマシタ。今後一層之ガ徹底ヲ圖ルノ要ガアルト思ヒマス。

第五　燈火管制

燈火管制ハ過去數次ノ訓練ト本訓練開始前ニ於ケル模範管制地區ノ設定或ハ各戸ニ對スル管制器具ノ事前點檢等ニ依リ指導ノ萬全ヲ期シマシタ結果各地方共概ネ良好ナル成果ヲ修メ得タノデアリマス。

然シ乍ラ、一部ニハ今尙燈火管制ニ付何等ノ設備ヲ爲サズ警戒管制時ヨリ消燈シテ閉店休業シ或ハ就寢セルモノ、管制下ニ於ケル就業繼續ニ付考慮ノ足ラザルモノ又ハ管制施設ニシテ一時的彌縫的ト認ムルモノ等ガアリマシタ又街路燈ニ對スル管制施設ヲ行ハザル爲警戒

管制時ニ依然之ヲ消燈シ交通保安上支障アリト認ムルモノ、工場鑛山等ニシテ空襲管制時許可無クシテ作業燈類ヲ殘置セルモノヲ見受ケマシタ。尚漁火ノ管制施設ハ順次整備セラレツツアルノデアリマスガ海上ニ在ル船舶ニシテ管制施設ノ不備ナルモノガ多數アリマシタ。燈火管制ニ付テハ今後一層之ガ施設ノ完備ト各防空警報ニ應ズル適確ナル管制方法ノ指導普及ニ付格段ノ配意ヲ希望スル次第デアリマス。

以上今次訓練ニ對スル成果ノ概要ニ付テ申述ベタノデアリマス。各位ハ此ノ成果ニ鑑ミ改善ヲ要スベキモノハ之ヲ是正シ研究ヲ要スベキモノハ急速ニ之ニ着手シ以テ防空ノ完璧ヲ期スル樣善處セラレンコトヲ切望致シマス。

終リニ臨ミ關係陸海軍當局ノ懇篤ナル御指導ト關係諸官廳ノ御協力トニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表スルト共ニ一般國民各位ガ、積極的ニ訓練ニ參加セラレマシタコトニ付テ深甚ナル敬意ヲ表スル次第デアリマス。

閣内

拾年保

内務省 防畫第五號

昭和十六年六月九日

内務次官

陸軍次官殿

防空幹部講習會開催ニ關スル件

各廳府縣ノ防空指導者又ハ地方防空教育機關ノ講師タルベキ者ニ對シ防空建築及偽裝ニ關スル專門的教育ヲ施シ以テ一般國民ヲ指導ス

ル目的ノ下ニ今回内務省防空研究所ニ於テ別紙要綱ニ依リ標記講習會ヲ開催可致候

二九七七

陸軍省 昭和 16.6.10 前午 大臣官房

陸軍省 16.6.10 防衛課

第四三號

七月十九日

條及通知候
追而貴廳係官聽講希望ノ向有之候ハバ其ノ
官職、氏名（二名以内）及宿舍ヲ要スル者ハ投宿
月日等ヲ六月十五日迄ニ静岡縣警防課宛御
通知相煩度

防空建築及僞裝ニ關スル防空幹部講習會要綱

第一、本講習ハ廳府縣防空指導者又ハ地方防空教育機關ノ講師タルベキ者ニ對シ防空建築及僞裝ニ關スル專門的教育ヲ施シ以テ一般國民ヲ指導セシムルヲ目的トス

第二、本講習ハ內務省主催トシ防空研究所ニ於テ其ノ事務ヲ擔當ス

第三、本講習ノ場所及期日ハ左ノ通トス

場所　靜岡市追手町　靜岡市公會堂

期日　自六月二十三日（月曜）至六月二十五日（水曜）　三日間

第四、廳府縣ハ防空指導者タル事務者及建築關係技術者（成可從來ノ本所主催ノ講習會ニ出席セザル者）各一名ヲ講習員トシテ派遣スルモノトス

第三陸海軍、各省及防空協會ハ參列員ヲ出席セシムルコトヲ得ルモノトス

第六講習内容ハ別表ニ依ルモノトス

第七警視廳ハ連絡廳トシテ本講習實施ニ必要ナル事務ヲ分擔スルモノトス

第八道府縣ハ講習員ノ官職氏名ヲ、陸海軍各省及防空協會ハ參列員ノ官職氏名ヲ六月十五日迄ニ靜岡縣ヘ通報スルモノトス

第九道府縣ハ講習終了後十日以内ニ受講者ノ所見ヲ内務省防空研究所ニ通報スルモノトス

別表

日程	使用時間	講習科目	
第一日（六月二十三日）	〇、二〇	開講ノ挨拶	内務省防空研究所長
	一、〇〇	木造建築物防空指導要領	内務省
	一、三〇	防火材料	東京工業大學
	一、三〇	防空建築施工ニ就テ	静岡高等學校
	一、三〇	静岡市大火災ニ就テ	同
第二日（六月二十四日）	二、〇〇	防空偽裝ノ基礎	内務省
	三、〇〇	防空偽裝指導要領	同
	一、〇〇	空襲ト偽裝	同
	一、〇〇	懇談會（講習員）	
第三日（六月二十五日）	七、〇〇	實地見學	
	〇、一〇	閉講ノ挨拶	内務省防空研究所長

第四四號

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長委任	

受番	件名
領號 壹第三一六二號	支那事變ニ因ル戰傷病者數ノ件

政務次官 参與官 回付 決裁 前後 連帶課名

決行(決裁)後 回覽課名

起元廳(課)名
軍事保護院

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
醫審第不ッ少號	昭和一六年六月二〇日	昭和拾六年七月拾貳日	昭和 年七月十二日	昭和 年七月十九日

大臣 委

政務次官	参與官	書記官	審案筆記官
次官 委			
主務局長	高級副官	主務副官 宜房翻用掛 主計	
	主務課長	主務課員	

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長 衛生	課長

陸軍

陸支密

次官ヨリ軍事保護院副總裁ヘ回答案

昭和十六年六月十八日附軍事保護院發總第一九一號ヲ以テ照會セラレタル首題ノ件別紙ノ通回答ス

陸支密第二〇六七號　昭和拾六年七月拾四日

陸軍

極秘

別紙

戰傷病者數調

區分 ＼ 戰傷病種別												
戰傷	兩眼盲	四肢切斷要義者	脊推損傷	頭部戰傷	其ノ他	結核性疾患（含胸膜炎）	精神病	癩病	其ノ他	計	將來除役又ハ召集解除セラルル見込ノモノ	除役又ハ召集解除セラレタルモノ	計
	二九〇	五五三〇	七〇〇	四八〇〇	五〇〇〇〇	59,700	四三〇〇	二七〇	五五五〇〇	三三一〇九〇	七〇	三三〇	二九〇
		五三〇	一三〇	四〇〇	四〇〇〇	13,200	一三〇〇	七〇	一一五〇〇	四一八九〇	五三〇	五〇〇〇	五五三〇
		五〇〇〇	五八〇	四三〇〇	四六〇〇〇	46,500	三〇〇〇	三〇〇	四四〇〇〇	一七九三〇〇	一三〇〇	七〇〇〇	七〇〇

備考

一、除役又ハ召集解除セラレタルモノトハ支那事變發生以來昭和十六

年五月末日迄ノモノトス

二、將來除役又ハ召集解除セラルヽ見込ノモノトハ昭和十六年六月以降昭和十七年三月末日迄ノモノトス

三、結核性疾患中アラビヤ數字ハ還送患者ニ係ルモノナリ

四、戰傷ハ總テ一等症戰病ニ於テハ結核性疾患中還送患者ハ殆ト全部一等症ニシテ其ノ他ノ戰病者ニ就テハ一等症、二等症ヲ區分スルコト困難ナリ

五、四肢切斷要義肢患者トハ大腿、下腿、上膊、前膊、要義肢者ノミトス

六、頭部戰傷者中機能障碍ノ程度輕度ナル者約六〇%高度ナル者約四〇%ナリ

七、一等症患者ノ項款目症別ハ概ネ四；四；二ノ割合ナリ

八、本表ハ昭和十六年五月末日ノ狀況ニ基キ調査セルモノトス

機密

陸軍省受領 壹第三一六二

軍事保護院發總第一九一號
昭和十六年六月十八日

陸軍次官殿

軍事保護院副總裁

支那事變ニ因ル戰傷病者數調ノ件照會

傷痍軍人保護ニ關スル昭和十七年度豫算編成上必要有之候ニ付今次事變ニ因ル戰傷病者數別記樣式ニ依リ至急御內示相煩度

陸軍省 昭和16.6.19 前午 大臣官房

陸軍省 昭和16.6.20 軍事課

陸軍 昭和16.6.1 第97 課長

軍事保護院

規格 B 5

戰傷病者數調

昭和十六年五月末日現在

戰傷病種別	戰傷					戰病				
	兩眼盲	四肢切斷（要義肢者）	脊椎戰傷	頭部戰傷	其ノ他	結核性疾患（胸膜炎ヲ含ム）	精神病	癩病	其ノ他	計
恩給受給見込ノモノ（一等症）										
除役又ハ召集解除セラレタルモノ										
將來除役又ハ召集解除セラルル見込ノモノ										
計										
服務關聯ノモノ（二等症）										
除役又ハ召集解除セラレタルモノ						一〇、〇九〇	一、五〇〇	二〇		
將來除役又ハ召集解除セラルル見込ノモノ										
計										
合計										

備考

1. 除役又ハ召集解除セラレタルモノトハ支那事變發生以來昭和十六年五月末迄ノモノトス
2. 將來除役又ハ召集解除セラルル見込ノモノトハ昭和十六年六月以降昭和十七年三月末迄ノモノトス
3. 一等症ノモノニ付テハ出來得レバ項款目症別數ヲ別表トシテ添付セラレタキコト
4. 戰傷欄ノ兩眼盲ハ疾病ニ因ル失明者ヲ含ムモノトス
5. 表中召集解除トアルハ傷痍疾病ノ爲ノ召集解除トス
6. 最近ニ於ケル結核性疾患（胸膜炎ヲ含ム）發生率ヲ附記セラレタキコト